

2004年の年頭にあって

病院長 宮下 正俊

1. はじめに

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年を振り返ってみますと、まず思い浮かぶのは3月20日に始まったイラク戦争です。テロの防止という目的で国際世論の反対を押し切ってスタートした戦争でした。しかしその後の経過は、テロの根絶・イラクの治安回復には程遠く、却ってテロが拡大しつつある状況で、とうとう2人の日本外交官も犠牲になるという最悪な事態となってしまいました。しかし暮にはフセインの拘束というニュースが世界中に流れました。このニュースに接してあらためて、半世紀前、平和という言葉が新鮮であり、実感を伴って話されていた少年時代を思い出しました。これを契機にイラクに平和が回復されるのを祈らずにいられません。

しかし、暗い話だけではなく、遅々たるものとはいえようやく、景気回復の兆しが見えてきたのではないのでしょうか。

医療関係では、年初から中国に端を発したSARS（重症急性呼吸器症候群）が世界をパニックに陥れました。当院でも早期から内外の情報を集め、茅ヶ崎保健福祉事務所と連絡を取り合っ、疑い患者が発生したときの院内体制について対策を練ってきました。しかし、実際のケースが生じた場合、一般診療に大きな影響を及ぼす可能性があり、どの程度まで隔離体制を取れるか苦慮するところでした。幸い昨年は日本での発症は見られなかったものの、これからインフルエンザが流行る時期が心配です。

2. 昨年一年の経過

翻って、茅ヶ崎市立病院における昨年一年について考えてみましょう。平成10年から建設工事中であった新病院も、昨年の3月に全館が完成しました。新病院の内容については、市内のケーブルテレビでも放映していただきましたので、ご覧になられた方も多いと存じます。新



設された総合内科、神経内科、呼吸器内科、代謝内分泌内科および呼吸器外科も順調に診療を開始することが出来ました。腎臓内科および人工透析室も予定どおり診療を開始しました。

総合内科については、別のところでもご紹介いたしました。内科系の病気で初めて当院を受診される方のために新設いたしました。まずここで診察の上、必要に応じてさらに専門の科にご紹介する仕組みになっています。また各専門の科には、開業医の先生からの紹介状を持って受診される方が多くなっています。開業医の先生の診察室から市立病院の地域医療連携室にお電話していただくと、その場で当院の予約を取ることも可能ですので、ぜひこの紹介予約制度をご利用ください。

入院ベッドについては平成15年度は移行期間として暫定的に351床で診療を開始しました。建設工事のため昨年3月まで2年半の間は239床と少ないベッド数で診療してきましたが、それに比べると110床以上増えた計算になります。そのため職員も医師18名、看護師60名が新しいスタッフとして診療に加わりました。

新しい診療体制のためもあり、4月、5月は入院をある程度抑えながら安全第一に診療を開始しました。7月以降は順調に90%以上の病床利用率を記録しています。したがって平成16年度は計画どおり、401床のフルオープンできることになりました。

年末には、今や当院の恒例行事となったボランティアによるクリスマスコンサートもエントランスホールで市長をお迎えして盛大に行われました。入院患者さんを中心に皆様に大変喜んでいただきました。

3. 401床オープンについて

平成16年4月にはいよいよ新病院建設の最終目標であった401床の全面開床が実現します。新たに開く5西病棟には整形外科、眼科、耳鼻咽喉科が移ります。それに伴い各病棟での科の配置が一部変更されますが、診療には支障はきたさないでしょう。

4. 特に臨床研修医制度について

今年の4月から、「臨床研修医」が茅ヶ崎市立病院でも診療に従事するようになります。どのように新しい医師を育てていくかについての考え方は、どのような医療を創っていくかという問いに答えることにもなりますので、この紙面を借りて少し考えを述べさせていただきます。

市民の皆様も新聞などでご存知のように、今年の4月から新しい「医師臨床研修制度」がスタートします。平成12年12月に公布された医師法改正に基づくものです。これはインターン制度が廃止されたあと、医師の研修制度について36年ぶりの抜本的な改革となります。

近年、医療の専門分化、多様化はどんどん進んでおり、若手医師においても専門医志向は強いようです。一方、日常の治療場面では限られた時間内で、十分な情報提供を行うことが求められるようになりました。つまり医師には、患者さんとのコミュニケーションを大切に、より幅広い全人的医療を行う能力が求められるようになってきました。

今までは、おもに大学病院で医師の初期研修が行われてきましたが、多くの問題点が指摘されてきました。大学が研究、教育、診療の3つの機能を受け持っているため、どうしても診療内容が専門分野に片寄る傾向がありました。大学で研修する場合、ある特定の科に入って（それはその大学のその科の医局に所属することを意味し、このことを入局といっています）研修を始めるケースが大多数でした。そうなるとその科で行われる高度専門医療に関する経験が中心になりがちでした。その科に関連のない分野に関しては、実際の診療を経験するチャンスが少なくなってしまいます。昨今の少子高齢化の時代においては、医療・福祉への要請の多様・複雑化に対応できる医師が求められています。そのような時代の変化に対応できるように、厚生労働省がひとつの回答として新しい制度を作ってまいりました。

新しい研修制度ではできるだけ、地域の、もしくは市中の医療機関で初期研修を行うような方向を推し進めています。研修の内容も具体的になり、すべての研修医が内科や、外科、救急（麻酔科を含む）を6ヶ月は経験しなければなりません。また小児科、産婦人科、精神科および地域保健医療も経験することが必須となりました。いずれもプライマリーケアができる医師を養成するという目的に沿った方針です。

一方、市内の病院で働く先輩医師にとっても、研修医を指導していくことが、自分自身の医療水準を高めることにもつながっていくことが期待できます。

臨床の場で新しい医師を育てることは、日本の医療体制を育てていくことですので、患者さんや市民の皆様の暖かい御理解と御協力をこの場を借りて院長からもお願いいたします。

5. おわりに

今年も昨年に続き「成長する病院」づくりを目指して職員一同努力していきたいと考えています。市民の皆様もどうぞ健康に御留意の上、充実した一年を過ごされますよう年頭にあって祈念いたします。

平成16年正月

茅ヶ崎市立病院の基本理念

私たちは、市民の健康を守るため、いつでも・だれにでも、良質な医療を提供します。

私たちは、患者さんや地域の医療機関とともに、効果的かつ効率的な医療を共創し社会の利益に貢献します。